

社団法人

俳人協会報

1973年
6月
No. 50

俳句文学館の設立

いよいよ本格化

— 田中総理に陳情 —

四月二十七日(金) いわゆる春闘の一環として国鉄・私鉄等が全面的にストに突入した朝であったが、田中首相に俳句文学館設立について理解と協力を要請

するため、水原秋桜子会長、富安風生顧問、角川源義俳句文学館建設委員長、安住敦理事長、岸風三樓事務局長の五氏が首相官邸に総理を訪ねた。

会見の内容については十時十五分前から僅か十分余りに過ぎなかったが、前もって関係資料を提出していたこともあり、角川委員長からの概要説明に対し、即座にうなずき、大きく膝をうって『解った時宜を得たもので極めて意義深いことだ。政府としても出来る限りの援助をしよう』ということであった。

なお、この日、特に水田三喜男前蔵相、宇野宗佑元通産政務次官の両氏が同道、何かと斡旋の労をとって頂いたことは洵に感謝に堪えない。誌して厚く御礼申し上げます。
(岸 風三樓)

俳句文学館についてのお願い

俳句文学館建設委員長 角 川 源 義

(一) 昨年十一月京都で行なわれた日本ベシククラブ主催の日本文化研究国際会議は、みのりの多いものでした。私たちはその会議で意外な事実を知ったのです。私た

ちの知らぬうちに俳句は輸出され、日本語という困難を克服し、世界の各国語に翻訳され、世界の人々に深い感銘を与えていたのです。俳句の翻訳について、ア

メリカ、スペイン、フランスの三人の学者・詩人が意見を發表しました。これは他の部会ではなかったことでした。日本のよさを精神的な世界で探ってみると、そこには俳句があったとか、アメリカの現代詩に日本の俳句と鈴木大拙氏の禪が深い影響を与えており、アメリカの小中学校ではハイクとよぶ三行詩が作らされているというのです。パリ大学のエティアンブル氏は、日本の現代詩に何の興味も持たないが、日本の俳句には深い興味と讚歎の念を持つと云いました。研究発表後、白熱した質疑応答があり、NHKのニュースとして報道されました。

また、最近お茶の水女子大の大学院に入学したアメリカの女子学生がハイクはアメリカが生んだ詩だと思っていたが、日本に来てハイクが日本の詩と知って驚いたという挿話を聞きました。日本人のP・R下手をここでも思い知らされたわけです。小説と違い俳句は短い詞章だけに、翻訳には大変な困難があります。しかし、京都に集まった人達は、大変流暢な日本語で俳句を朗々と吟じていました。これらの人々は日本の風俗習慣にも通じており、日本人の季節感に深い理解を持っておりました。一部の日本人が俳句を古くさいものと否定する現代の風潮にあって、これは全くの驚きでありました。

(二) 世界のどの国でも詩人といえど一握りほどの存在にすぎない。ところが、日



(首相官邸にて)

本の俳句は「床屋俳句」とよばれるほど国民のあらゆる層に行なわれており、外国では詩人と読者とは全く別ですが、もともと詩的民族である日本人は、詩人であると同時に読者（享受者）でもあるのです。

俳句は日本の自然や風土が生んだ詩です。詩人科学者寺田寅彦は「俳句歳時記は日本人の季節感のインデックス（索引）」と申しました。俳人たちは失われゆく自然や風土のなかで、その美を探っているのです。もっとも日本を愛する人々であり、今日の日本を支えている底辺の人達であることをお考えいただきたいのです。その日本愛、祖国愛は詩によって養われておりますから、抽象的・観念的な感情ではなく、美しい自然や風土に根ざした愛情であることに意義があるのです。

(三) 数年前の統計資料及び調査によりますと、俳句人口は六百万と推定されています。この調査を信じますと、現在では千万を越えるようです。近年における俳句熱は全く異常とさえ思えます。これは日本人の平均年齢が長寿化し、家族制度の変革・核分裂によって促進されています。懸命に養育し教育した子女は長ずるに従い核分裂し、あとには夫婦二人きりが家に残され、第二の人生を歩まねばならぬのです。中高年齢の人達は孤独なまま、宗教的救いを俳句に求め、夫婦で俳句を作り始める例が激増しています。マ

スコミの話題にならぬ現代世相が実在しているのです。恍惚の人になりたくない、俳句に志を寄せる人もあります。恍惚の人は社会問題になります、その数十倍の人たちに私どもは救いの手をさしのべているのです。

私たちは野鳥や野草をさぐる会を開催していますが、その参加者の殆んどが中高年齢層という事実は何を物語るのでしようか。昨年、社団法人俳人協会と社団法人中央共同募金会とが共催し、「赤い羽根」俳句を募集し、

愛の羽根むかし病みたる胸に挿す

(埼玉) 高橋 鷹史

若ければ胸高く挿す愛の羽根

(川崎) 池田 秀水

赤い羽根働く胸によく似合う

(昭島) 中山 豊子

の秀句を得ることが出来ました。

(四) 俳句を愛する人の句業は、有名無名を問わず、いつの代にも出版されていますが、高度成長の今日では自費出版も容易となり、俳句出版は盛行しています。しかし、専門的管理機関がなく、数年を経ずして千万の値となり、収集の困難を年々歳々深めています。先人の遺墨・遺品・遺跡は俳句に理解のない子弟には塵芥にひとしく、屑紙として製紙会社に運ばれ、かえりみる人もないまま遺跡は荒廃し消滅しています。家の文芸としての句集や、地方的俳句運動の記録は日ならずして消えうせ、百年知己を持つとは申し

ますものの、まことに愚かしき喩えとなつていのです。

もともと俳句は庶民の文芸であり、また俳句文学館の建設や管理・運営も、私たちの手で行なうべきものでしょうが、優秀な俳句作家が経営の任に適しているとは申せず、経済的な裏づけもまた乏しい実情です。ここに国の援助をお願いし、広く政財界や有識者に訴え、建設・管理

・運営に御協力を求めるしだいです。私たちは次の世代にこの偉大な遺産を継承させ、俳句を通して日本を愛する次代の人々を育成して行きたいのです。

本稿は、四月二十七日、田中総理に陳情に赴いた際手交した関係資料の一部である。

句集・俳誌の御寄贈についてのお願い

協会事務局においては、各種の句集・俳誌など御寄贈いただいたものにつきまして、すべて丁寧整理し、一覧できるように保存いたしております。これらはやがて俳句文学館が建設されますと一切その方に移管することと致しております。このように今から各種資料の充実に力を尽しております。

ついでには、会員の方で、句集など

上梓された際には一部御寄贈願いたく存じます。また、月刊俳誌につきましても未だ御寄贈いただいていない向きにつきましては今後一部御寄贈頂ければ幸甚に存じます。

なお、現在のところ貸し出しは御遠慮して頂いておりますが協会にお越しの上御覧になることは御自由で御座います。

定例理事会

日時 昭和四十八年三月三日(土) 一時より五時まで

場所 俳人協会事務所

出席者 水原会長、大野、秋元両副会長
安住理事長、有働、角川、岸、草間、皆吉、香西、松崎各理事

議事概要

◇岸事務局長から、会員の動向に関し報告、二月中に長谷川秋子(水明)・田中午次郎(鶴)・山本嵯迷(水明)の三会員が逝去され、会員現在数は一五二八名となる。

なお、長谷川秋子氏に対しては告別式当日水原会長の悼詞を岸事務局長が代読した。

◇三月三十一日開催予定の四十七年定時総会について協議、当日の運営および議案の再検討を行ない、遺漏の無いことを確認した。

◇香西理事から、現代俳句選集の刊行について進捗状況の報告があり、本年度の新規加入予定の新会員も含めることとした。

◇有働理事から地方における懇親吟行会について報告。五月二十一日の高松吟行会には水原会長の他阿波野青畝氏を講師として派遣することを決定。秋に茨城県土浦で開催の予定。なお、関西大会は東京の全国大会との関係もあり来春催す

ることとした。その代り今年は大阪周辺で吟行句会を企画したい。

◇草間理事から、第二回野草を採ぐる会を六月三日(日)高幡不動で行なうこととした。和田暖泡幹事を中心に計画を進めている。

◇同じく草間理事から、全国俳句大会の選者についてはほぼ全員承諾を得た。講演者についてはまだ未定である。

◇皆吉理事から新会員の特別推選についての提案があり、宇野宗佑(翠子)、真鍋蟻十、下田実花、田中重弥の諸氏を推すことに決定。

◇安住理事長から俳句カレンダーについて、今年はもう少し早く手がけて欲しいとの発言に関連し、当月分俳句の収録を今年のものより多くすべきであるという意見、又その反対意見等種々の発言があったが、結局カレンダー委員会を早急に発足し、検討して貰うこととした。

◇水原会長から、先日東京堂出版から「現代秀句鑑賞辞典」を、俳人協会の責任編集でやって呉れないかとの依頼があったのでどうするかとの発言があり、一同了承。本件は出版部との関係もあるが特に有働理事を連絡窓口とし、執筆者等の人選を進めることとした。

(岸 風三樓)

山形懇親吟行会のご案内

あらゆる結社を超え、俳句作家としての友情と理解を深めるため左記のとおり、山形県で初めての大规模な吟行会を開催いたします。伝統派のお方なら俳人協会々員でなくても、どなたでも参加できます。皆さんお誘い合せの上、奮ってご参加下さい。

記

日時 昭和四十八年七月二十二日(日)

午前十時受付開始、午後四時閉会

会場 山形県立上山農業高等学校講堂

吟行地 国鉄上山駅前登山形行バス約一〇分、上山競馬場前下車
斎藤茂吉記念館、茂吉の墓、茂吉の生家、その周辺

投句 触目一人三句(正午投句締切)

出席選者 (各自、自由吟行の上、会場へご参集下さい。)

秋元不死男、林 翔、栗田九零子、佐藤南山寺

秋沢 猛、細谷 鳩舎、中川 糸遊、吉川 孤丈

土屋 巴浪、松村 黙庵、福地 純、阿部 子峽

吉岡泰山木

五〇〇円(当日納入)

各選者の特選一句に賞品、他に秀逸発表

備表会 晴雨に拘らず開催します。(2) 昼食は各自ご持参下さい。

考彰費 (3) 当日、閉会後簡単な懇親会を催します。

(4) 懇親会参加ご希望の方は受付時にお申込下さい。

(5) 宿泊ご希望の方は、七月十五日まで佐藤南山寺あてお申込頂ければ、上山温泉の旅館(約三、〇〇〇円)を幹旋いたします。

りです。

〒999-31 山形県上市市二日町矢来橋 佐藤南山寺

電話(〇三三六七)二一〇二〇七

昭和四十八年六月

主催 社団法人 俳 人 協 会

後援 山形新聞・山形放送・山形県芸術

文化会議・上市市立斎藤茂吉記念

館・山形県俳人懇話会